

昭和大学医学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「至誠一貫」の精神のもと、「真心を持って医学・医療の発展と国民の健康増進と福祉に寄与する医師の育成」を達成するために必要な教育内容・方略、学修成果の評価などのカリキュラムについて示します。

1. 初年次の富士吉田教育部では、全寮制教育と学部連携教育(歯学部・薬学部・保健医療学部)により、多職種連携医療に必要な広い視野で考える能力を身につけるとともに、豊かな人間性を涵養する。
その成果はレポート、グループワークへの参加態度、ポートフォリオで評価します。
2. 2年次からの専門科目では、医学部モデル・コア・カリキュラムをもとに本学独自のカリキュラムを適切に組み合わせ、基礎と臨床の統合型カリキュラムとします。
診療を行う上で必要な基礎医学の修得と並行して、関連する臨床医学、社会医学を効果的に修得できるカリキュラムです。
3. 2年次以降の英語教育では、ネイティブスピーカーとの医療面接、英語文献の読解など国際人として有効な知識と技能を身につけるカリキュラムとします。
4. 1年次から4年次では、少人数によるPBLチュートリアルを積極的に取入れることで能動的に自ら問題を発見し解決する能力を身につけ、修得した知識をグループメンバーの前で発表するプレゼンテーションスキルを修得します。
この成果は、グループワークへの参加態度、ポートフォリオにより評価します。
5. 4年次では、臨床実習前に基本的臨床技法、画像診断技法および治療技術を修得するカリキュラムとします。これら技法・技術の修得の評価は各実習での mini-OSCE や共用試験 OSCE で行います。
6. 4年次から5年次にかけて、すべての診療科で臨床実習を行い、実践の場で必要とされることを念頭に、卒業前に身につけなければならない知識・技能及び専門職としての態度を修得するカリキュラムとします。
これらの修得度合いの評価は各診療科での臨床実習中のポートフォリオ、レポート、指導医の直接的な評価により行います。
7. 6年次では、内科、外科は必須科目として4週間のクリニカルクラークシップを実施します。
そして、残り5か月は、自ら選抜した診療科でのクリニカルクラークシップを行うとともに、

希望により国内の研修施設あるいは海外の研修施設での臨床実習も可能なカリキュラムとします。

修得度合いの評価は、ポートフォリオと指導医の直接的な評価により行います。

8. 卒業試験は、主に知識を評価する MCQ と技能・態度を評価する OSCE により行います。

これらは、国家試験レベルでの問題と共用試験実施評価機構の推奨 OSCE 課題、独自に開発した OSCE 課題により行います。

これらの評価により、至誠一貫の精神を具現する能力の修得度合い評価し、これを担保します。

平成29年4月1日施行